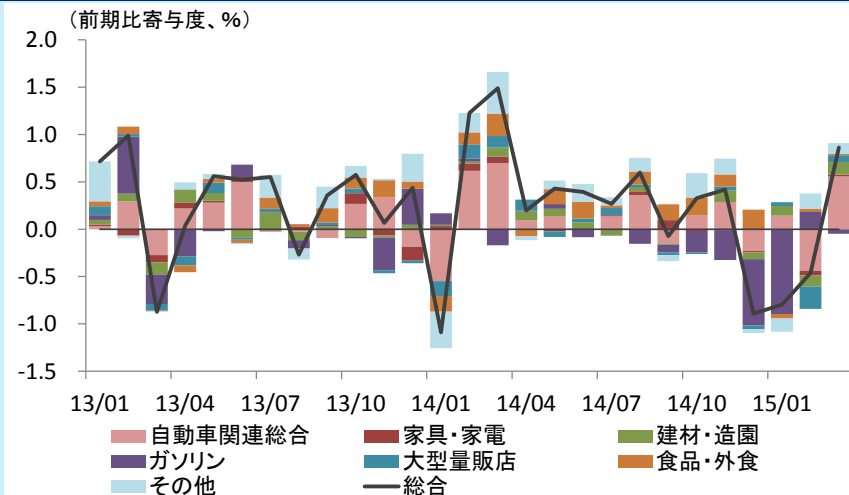


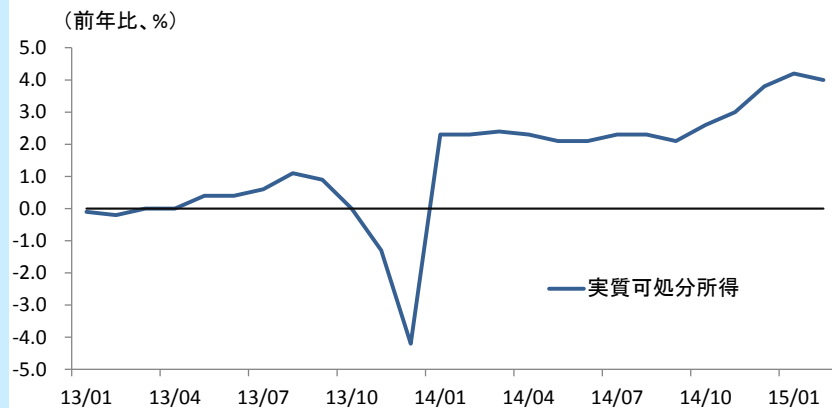
米国：小売売上高（2015年3月）

MRI Daily Economic Points
April 16, 2015

図表1 小売売上高 項目別 寄与度



図表2 実質可処分所得



資料：米国商務省

評価ポイント

今回の結果

- 3月の米小売売上高(4/14日公表)は、前月比+0.9%の増加。14年末以降、ガソリン価格の大幅な低下^{注)}や、寒波到来の影響から小売売上高の減少が続いていたが、3ヶ月ぶりに増加に転じた。
注)小売売上高は名目値で公表されるため、価格の下落は売上高の減少につながる。
- 内訳をみると、ガソリン(同▲0.6%)、家電(同▲0.5%)、食品飲料(同▲0.5%)などが減少した一方、自動車(同+2.7%)、建材・造園(同+2.1%)、家具(同+1.4%)などが増加した。

基調判断と今後の流れ

- 3月の小売売上高は、寒波の影響を受けて減少した2月からの反動増により大幅な増加が期待されていたが、市場の予想をやや下回る結果となった。サービス消費を含む個人消費支出(PCE)も増加基調を辿っているものの、ここ数ヶ月は寒波の到来もあり、14年後半に比べるとやや勢いを欠いている。
- 一方、家計を取り巻く環境をみると、原油安による物価上昇率の低下や雇用市場の改善を背景に、14年後半以降、実質可処分所得は伸びを高めている。また、3月の消費者信頼感指数(3/31日公表)は101.3と、07年8月(105.6)以来2番目に高い水準となり、マインドの改善が続いている。住宅価格も上昇に転じており、消費への資産効果が期待される。
- 今後の米個人消費は、上記の要因に支えられ、回復ペースを取り戻すとみられる。
- 下振れリスクとしては、①米国株価が軟調に推移する場合の消費者マインドの下振れや、②金融政策の正常化過程での急激な長期金利の上昇が考えられる。